

# 平成 30 年度第 3 回熊本県糖尿病療養指導研修会 (報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会

日 時 平成 31 年 2 月 24 日 (日) 09:00~16:30

会 場 名 熊本中央病院 2 階 大講堂

午前の部

## ◇『妊娠と糖代謝異常』

講師: 国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科 医長 小野 恵子先生

妊娠中の糖代謝異常の診断から、妊娠前管理、妊娠中管理、産後の管理とそれぞれの段階においてお話を頂きました。①妊娠中の母児の合併症予防②GDM、妊娠時の明らかな糖尿病妊婦およびその児の将来の肥満、糖尿病、メタボリックシンドローム発生の予防を管理目標として、妊娠前、妊娠中、産後を通じた一貫管理が重要であると教えて頂きました。また、血糖値は児発育に最も影響を与える因子であるが、肥満も血糖と独立した児発育への影響因子であることもお話されました。食事療法、運動療法、インスリン製剤の選択と幅広く学ぶことも出来ました。非妊娠時と比べて厳密になるため、栄養指導にたずさわる栄養士は栄養学的なアプローチが必要になることから今後の指導に役に立つ内容でした。

## ◇『肝疾患と糖尿病』

講師: 土井内科胃腸科医院 院長 土井 賢先生

最初におさらいとして肝臓における糖代謝について説明がありました。2 型糖尿病の肝臓ではインスリン抵抗性のため肝糖産生は抑制されずむしろ亢進すること、一方でインスリン作用による脂肪酸合成が亢進するという、選択的インスリン抵抗性のメカニズムについてお話を頂きました。また、C 型肝炎は糖尿病発症のリスクが高くなるというメカニズムについてもお話を頂きました。NAFLD/NASH における代謝異常、脂肪性肝障害の病因、NASH 肝硬変からの肝癌発生率など多岐に渡り説明して頂きました。後半は診断と治療について、病理のスライドも用いながら教えて頂きました。まとめとして、年 1 回は画像診断が必要であること、発症、進展の危険因子について、NAFLD に対する栄養指導の有用性や、病態、肝障害の程度に応じた療養指導が重要であると教えて頂きました。改めて再確認が出来て大変勉強になりました。

## ◇『新しい糖尿病治療薬の利点をいかすために～副作用を含めて～』

講師: 熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学 特任准教授 本島 寛之先生

血糖コントロール目標も、65 歳以上は高齢者糖尿病の特徴を踏まえた治療が重要であり、高齢者は血糖にばらつきが多く個々人の状態に合わせた血糖目標が大切であるとのことでした。特に重症低血糖が引き起こすイベントの発生頻度やメカニズムについて教えて頂きました。次に糖尿病治療薬について、病態に合わせた経口血糖降下薬の選択の説明では SGLT2 阻害薬と GLP-1 製剤の効果を引き出す療養指導について症例を用いながらお話がありました。新しいデバイスの活用については、HbA1c や従来の SMBG から把握できるデータは充分ではないことから、CGM や FGM を用いることで評価困難な時間

帯に低血糖や高血糖を起こしていないか等を確認することが出来ることを教えて頂きました。糖尿病療養指導士として理解しておかないといけない内容が盛りだくさんで大変勉強になりました。

午後の部

## ◇『臨床の場における栄養の基礎知識』

講師: 尚綱大学 非常勤講師 管理栄養士 佐藤 悦子先生

最初に、日本の低たんぱく食推奨の第一人者でもあった出浦先生の、出浦語録:「患者のみを考えよ」のお話から始まりました。講義では病態や臨床栄養学を理解する上で極めて重要な項目である、生体にエネルギーを供給する3大栄養素に関する生化学、生理学的な基礎知識について説明して頂きました。炭水化物(糖質)、脂質、アルコールの代謝、たんぱく質の合成についてお話されました。またドイツやアメリカで経験された臨床の現場やNSTをされていた熊本市民病院の症例も交えながら詳しく教えて頂きました。佐藤先生手作りの解糖系もお示し頂き、治療法を理解するには十分に栄養の基礎を理解することが大切であることを復習出来て大変勉強になりました。



小野 恵子先生



土井 賢先生



本島 寛之先生



佐藤 悦子先生



全体風景

今回は総勢 111 名の出席でした。(内訳: 管理栄養士 63 名、看護師 28 名、薬剤師 10 名、臨床検査技師 7 名、理学療法士 2 名その他 1 名)

チーム医療の一員として患者さんの状態に応じたきめ細やかな療養指導を実践出来るためには、高度かつ幅広い専門知識を身につけることが重要であり、大変理解を深める研修会でした。ご講演頂きました小野先生、土井先生、本島先生、佐藤先生ありがとうございました。